

# 当別のNPOが 被災障害児施設

## 岩手で夏休みに開設

【当別】東日本大震災で被災した障害児のために、石狩管内当別町のNPO法人「当別町青少年活動センターゆゆう24」は25日から、夏休み中の受け入れ施設を岩手県田野畑村で開設する。支援するボランティアも募集中で、需要が大きければ常設化し、現地の雇用創出も目指す。

道央8カ所で障害児の自立支援施設を運営する同NPOの大原裕介理事長(31)は、震災直後から継続的に現地入り。ボランティア活動を行う中、同村で障害児の居場所が失われている現状を知り、愛知県のNPO法人と一緒に施設を開設することにした。

既に村内に一軒家を確保、大原さんらスタッフは週明け、現地入りし、準備に取りかかる。開設期間は8月19日まで。被災した障害児を日中、受け入れる。

自然体験などを企画、毎日の送迎もする。

全国から趣旨に賛同する介護福祉士などの専門スタッフ15人が交代でカバー、必要最小限の体制は確保できている。そうしたボランティアはさらに必要で、多くなれば他地域の施設にも派遣する。

岩手県障がい保健福祉課は、障害児の受け入れについて「被災地の要望は高い」と歓迎。既に5人の申し込みもある。大原さんは「障害児の居場所作りは被災した親の負担も減らす。何より子供たちにとって良いこと」と話す。

現地で支援する専門職や学生のボランティアスタッフは3日間以上の参加が条件で、交通費のほか、宿泊、食事の代金もかからない。

問い合わせは同NPO ☎01333・22・2896へ。